

くすりのしおり

外用剤

2025年06月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：タフチモ配合点眼液「日点」

主成分：タフルプロスト (Tafluprost)
チモロールマレイン酸塩 (Timolol maleate)

剤形：無色澄明の点眼剤、2.5mL、(キャップ) 赤茶

シート記載など：



この薬の作用と効果について

β受容体を遮断する作用によって房水産生を抑制し、また、プロスタノイドFP受容体に作用し、ぶどう膜強膜流出路を介して、房水とよばれる目の中の体液の排出を促進して眼圧を下げます。

通常、緑内障、高眼圧症の治療に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。気管支喘息またはその既往歴、気管支痙攣、慢性閉塞性肺疾患、心不全、洞性徐脈、房室ブロック、心原性ショック、肺高血圧症による右心不全、うっ血性心不全、糖尿病性ケトアシドーシス、代謝性アシドーシス、糖尿病、眼内炎（虹彩炎、ぶどう膜炎）がある。無水晶体眼または眼内レンズ挿入眼である。コンタクトレンズを使っている。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・通常、1回1滴を1日1回点眼します。必ず指示された使用方法に従ってください。
- ・容器の先端が直接目に触れないようにしてください。
- ・点眼後は、しばらく（1～5分間）まばたきをしないで目をつぶってください。
- ・目からあふれた点眼薬は、清潔な濡らしたガーゼやティッシュでよく拭き取るか、目を閉じて洗顔してください。目の周りに点眼薬がついていると、目の周りが黒ずんだり、まつげが長く、太くなったりすることがあります。
- ・他の目薬と併用するときは、少なくとも5分以上の間隔をあけて点眼してください。
- ・ソフトコンタクトレンズをつけている場合には、レンズをはずしてから点眼し、5～10分間の間隔をあけてからレンズをつけてください。ソフトコンタクトレンズが変色することがあります。
- ・点眼し忘れた場合は、その日のうちであれば、すぐに1回分を点眼してください。翌日に気づいた場合には、前日の分は点眼せず、通常どおり1回1滴を1日1回点眼してください。1日に2回点眼したり、1回に2滴点眼してはいけません。頻回投与により、眼圧下降作用が減弱する可能性があります。
- ・誤って多く使用した場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・医師の指示なしに、点眼するのを止めないでください。

生活上の注意

- ・点眼後、一時的に目がかすむことがありますので、症状が回復するまでは、機械類の操作や自動車などの運転は行わないでください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、まつげの異常（まつげが長く、太く、多くなるなど）、結膜充血、角膜上皮障害（眼がしみる、眼のかゆみ、眼痛）などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・黒目（虹彩）の色が濃くなる [虹彩色素沈着]
- ・眼の異物感、眼痛、結膜充血 [眼類天疱瘡]
- ・息切れ、息苦しい、喘鳴（ヒューヒュー音） [気管支痙攣、呼吸困難、呼吸不全]
- ・呼吸困難、意識消失、立ちくらみ [心ブロック、うっ血性心不全、心停止、脳虚血、脳血管障害]
- ・発熱、全身倦怠感、紅斑ができ日光で悪化する [全身性エリテマトーデス]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・この薬は5mL用点眼容器に2.5mL入っていますので、液の量が少なく見えます。
- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、光と湿気を避けて、投薬袋に入れて室温（1～30℃）で保管して

ください。

- ・開封後1ヵ月が経過し、薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は受け取った薬局や医療機関に相談してください。他の人に渡さないでください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。